

I T S を活用した交通安全の取組について

1 交通安全のための I T S 実証実験の実施について

愛知県 I T S 推進協議会（会長：愛知県知事）では、「I T S 安全・安心グループ」を設置し、昨年度は交通安全をテーマに、I T S の活用方策や具体化に向けた取組等を検討した。

協議会会員から提案のあった I T S 活用方策のうち、（公財）豊田都市交通研究所の「車速センサーと電光掲示板を用いたゾーン30での速度超過対策」については、同研究所と本協議会、刈谷市及び豊田市とが協力して、今年度、刈谷市内と豊田市内で実証実験を実施した。これはゾーン30では全国初の取組となった。

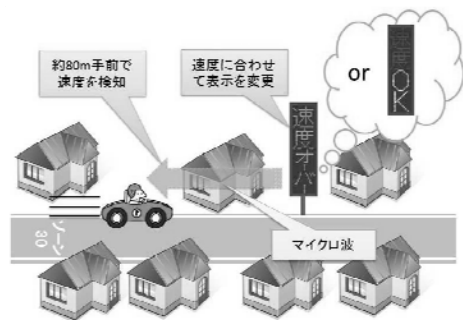
(1) 実証実験の概要

走行中の車両の速度をセンサーで検知して、電光掲示板に警告等を掲示し、速度超過抑制を図る。

道路に設置した表示板一体型の車速センサーにより車両の速度を検知

速度超過車両には「速度オーバー」、速度遵守車両には「速度OK」と電光掲示板に表示

電光掲示板の表示から通過するまでの車両速度の変化を記録



(2) 電光掲示板の運用期間及び設置場所

刈谷市内：平成26年7月12日（土）から平成26年9月6日（土）まで
東刈谷地区のゾーン30

豊田市内：平成26年9月13日（土）から平成26年11月11日（火）まで
井郷地区のゾーン30

【刈谷市東刈谷地区】



【豊田市井郷地区】



(3) 結果の概要

- ・電光掲示板を挟んだ広範囲（調査した区間の全般（150m））において、速度抑制効果が見られた。
（平均速度の低下：刈谷4～5 km/h、豊田2～3 km/h）
- ・速度遵守車両（30 km/h以下の車両）が増加した。
（速度遵守車両の増加割合：刈谷10～30%、豊田5～15%）
- ・電光掲示板を設置しても、交通量に変化は見られなかった。
- ・ゾーン30内とその周辺の住民へのアンケート調査により、当システムの受容性が高いことが分かった。

(4) 今後の取組

刈谷市内のゾーン30に電光掲示板を常設し、経年観察を行いながら交通安全対策に活用していくとともに、普及啓発のツールとして活用していく。

2 I T S安全・安心グループの活動について

(1) 今年度の活動

愛知県 I T S 推進協議会では、昨年度に引き続き交通安全をテーマとし、オープンデータやビッグデータの利活用の観点から I T S の活用方策を検討できるよう、次の研究会を開催した。

「オープンデータを活用した交通安全対策に関する研究会」(11月28日)
オープンデータの現状を把握し、その利活用に向けた課題等を認識するために開催した。交通管理者、道路管理者等からの話題提供と意見交換を行った。

【話題提供の内容】

- オープンデータの取組 (内閣官房、愛知県)
- 交通事故データの保有状況 (愛知県警)
- 道路管理データの保有状況 (中部地方整備局、愛知県)

「オープンデータ等活用事例研究会」(3月16日)
オープンデータ等の具体的な活用事例を紹介した。

【紹介した活用事例】

名古屋工業大学、愛知県、岐阜県、三重県玉城町



(2) 来年度の活動予定

現在、I T S 安全・安心グループ活動への参加者 (I T S 活用方策の提案希望者) を募集している (4 月下旬まで) 。提案希望者には、官公庁保有データの詳細を把握するための個別相談・検討の機会を設ける予定。

優良な提案に対しては愛知県 I T S 推進協議会からの助成も検討し、実証実験等につなげていきたい。

3 安全運転支援システム路側機の整備について

愛知県では、来年度、交通事故を減らすことが大いに期待される安全運転支援システム (主に「右折時衝突防止支援システム」) について、路側機を 1 機整備し、当該システムの高度化を目指す国等の実証実験に参画して、実験の精度の向上に寄与していく。

【参画予定の実証実験】

- ・「戦略的イノベーション創造プログラム (S I P) 」として総務省が実施する実証実験
- ・一般社団法人 U T M S 協会が実施する実証実験

